

# 断熱屋から見た「知らなければ損をする住宅性能の話」

私たちが暑さ寒さを感じる「熱」、この熱を知ることによって室内の空気環境を快適にコントロールすることができます。熱には「伝導」「対流」「放射」の三つの伝わり方があり、健康・快適な省エネ住宅を建てるためには大きく影響します。



では、最初に躯体からじっくりと伝わって逃げる熱、「伝導」から話します。この躯体(固体)の中を移動していく熱を少なくするために断熱材を入れて伝わりにくくしており、この伝導を示す数値としては、躯体の中を1時間に1度の温度が1㎡あたりでいくらの熱量が必要を示す熱貫流率(U値)があります。この熱貫流率を小さくするために断熱材を高性能な断熱材に変えたり、断熱材の厚みを増やしたりして高断熱化が進んで来ています。

断熱材の性能をUPすることは熱の流失を防ぎ、住まいの温度差が少なくなるのです。熱の出入りは伝導(断熱性能)だけでなく「対流」による熱損失もあり、結露などさまざまな問

題が発生します。住まいの健康・快適性や省エネルギー性能を実現するために欠かせない「対流」について次回は書きたいと思います。

● マルフジフォーム工業株式会社  
代表取締役

藤井政則 ふじいまさのり



断熱業界にはや21年。断熱、気密、換気、冷暖房4つの視点から住まいの快適性実現のアプローチを行っている。「この環境、なんとかならんか!」という悲鳴に応じて日夜東へ西へ奔走中!

〈問い合わせ〉  
福山市千田町千田3183-1  
TEL.084-955-3433  
<http://www.marufujifoam.com>